

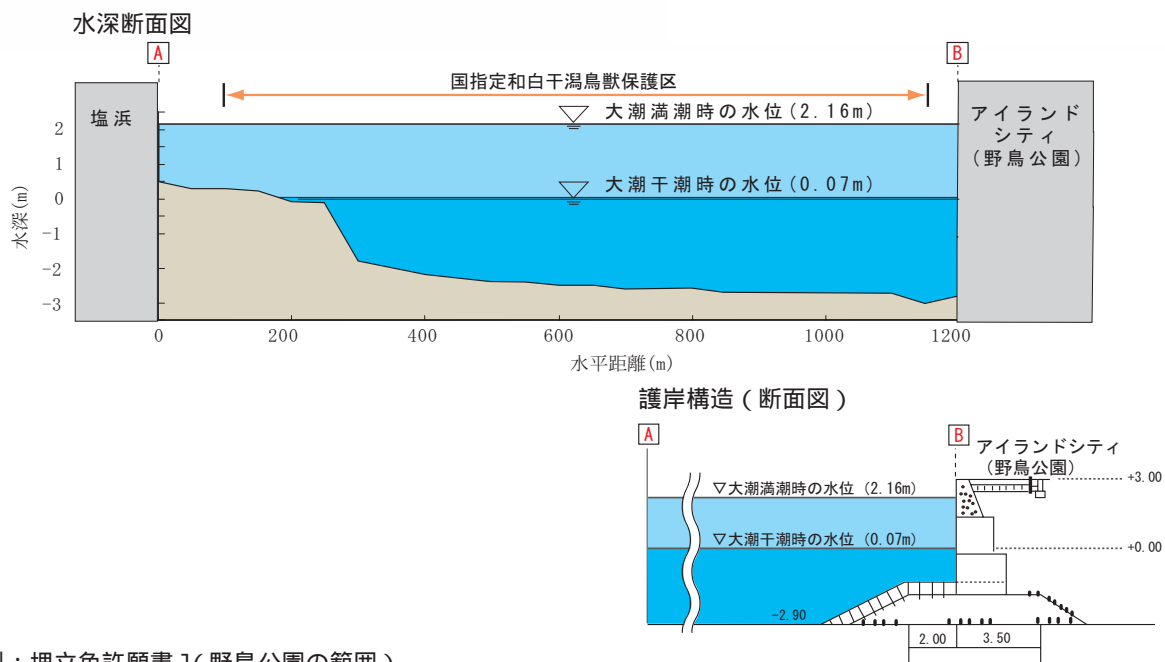
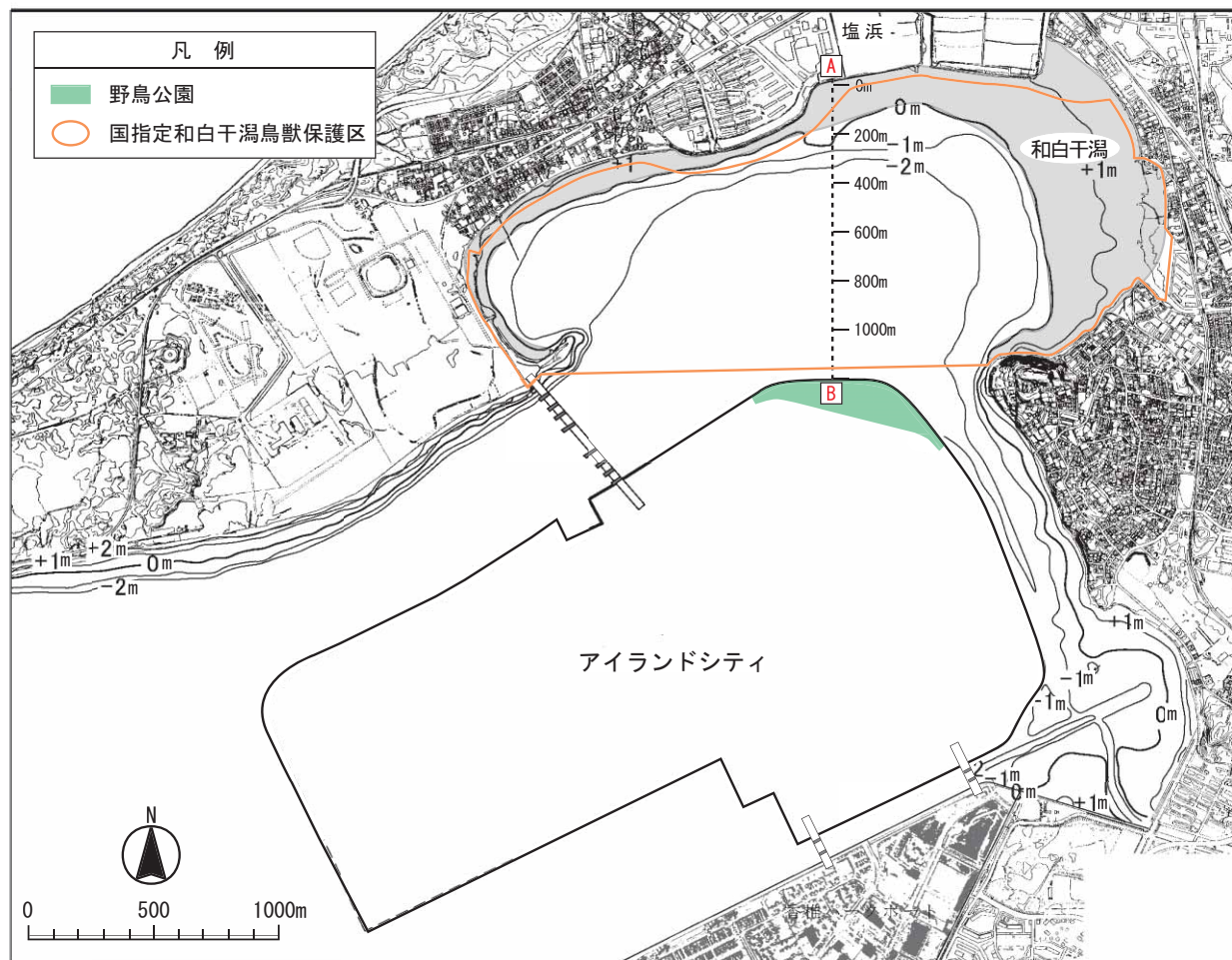
参考資料

目次

■ 野鳥公園の範囲，周辺海域の水深，護岸構造	1
■ 博多港の海岸地形の変遷	2
■ 博多湾東部の埋立方式の変更	3
■ アイランドシティの土地利用ゾーニング	4
■ エコパークゾーン	5
■ エコパークゾーン周辺の土地利用状況	6
■ 交通アクセス	7
■ 博多湾の水質年平均値の平面分布	8
■ 博多湾の水質経年変化	9
■ 博多湾の水質（海底直上の DO（溶存酸素量））	10
■ 博多湾の底質（COD）	11
■ エコパークゾーン周辺の緑地分布	12
■ エコパークゾーン周辺の緑地の植生	13
■ エコパークゾーン周辺の緑地の植生（唐原川河口）	14
■ 海生生物の生息環境の分布	15
■ 鳥獣保護区等の指定状況	16
■ 鳥類の種数・個体数（水域）	17
■ 鳥類の種数・個体数（緑地）	18
■ 水鳥のよくみられる時期	19
■ 鳥類の分布状況	20
■ 鳥類の土地利用状況	21
■ 人と自然とのふれあい活動の状況	22
■ 東部海域の区画漁業権図	23
■ 環境保全に向けた取り組みと実施位置	24
■ 覆砂，護岸整備など（御島地区）	25
■ 護岸整備（塩浜地区）	26
■ 干潟耕耘，アサリ放流など（和白地区）	27
■ 市内水処理センターにおける下水高度処理の整備状況	28
■ 東京湾周辺野鳥公園の位置と面積	29
■ 東京湾周辺野鳥公園の特性比較表	30
■ 用語解説	31

■野鳥公園の範囲，周辺海域の水深，護岸構造

野鳥公園の範囲と周辺海域の水深平面図

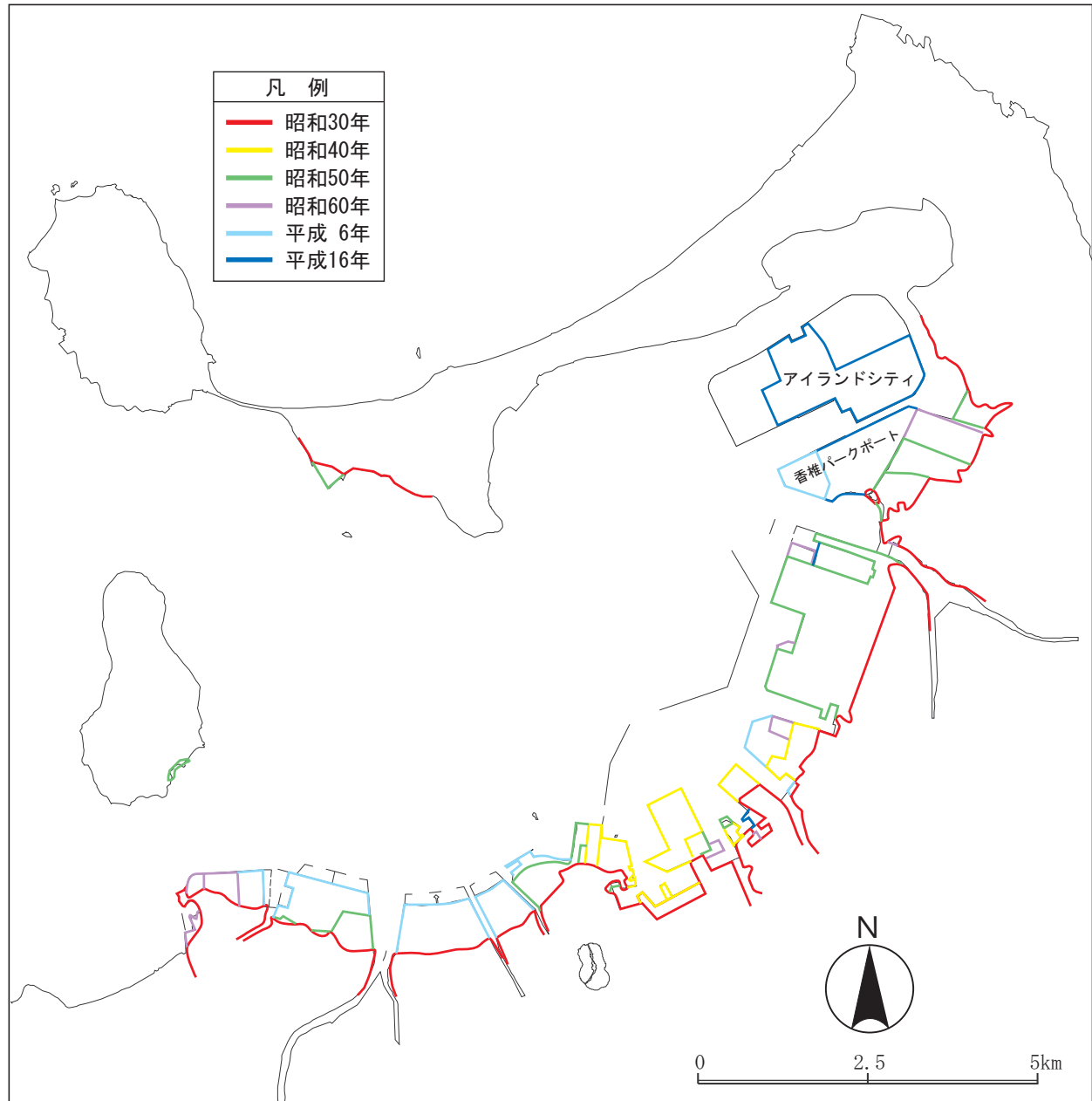


[資料：埋立免許願書](野鳥公園の範囲)

[資料：「アイランドシティ整備事業環境監視結果(平成15年度)」「(平成16年7月 福岡市港湾局)】(水深)

野鳥公園は，アイランドシティの埋立免許願書では親水緑地として図に示す約8.3%の範囲に設定されており，野鳥公園周辺の海域の水深はほぼ3m未満と浅い。野鳥公園位置における代表的な護岸構造は，護岸断面図に示すとおりで，直立構造となっている。

■ 博多港の海岸地形の変遷



[資料 : 博多港 現況と将来 平成 10 年度 福岡市港湾局]

博多港では、昭和30～40年代には貿易量増加に対応するための港湾機能の強化を目的として、昭和50年代には福岡市の人口増加に伴う住宅地等の確保を目的として大規模な埋立が実施され、さらに昭和60年代以降は外資コンテナの急増に対応するため、香椎パークポートやアイランドシティの埋立が行われた。

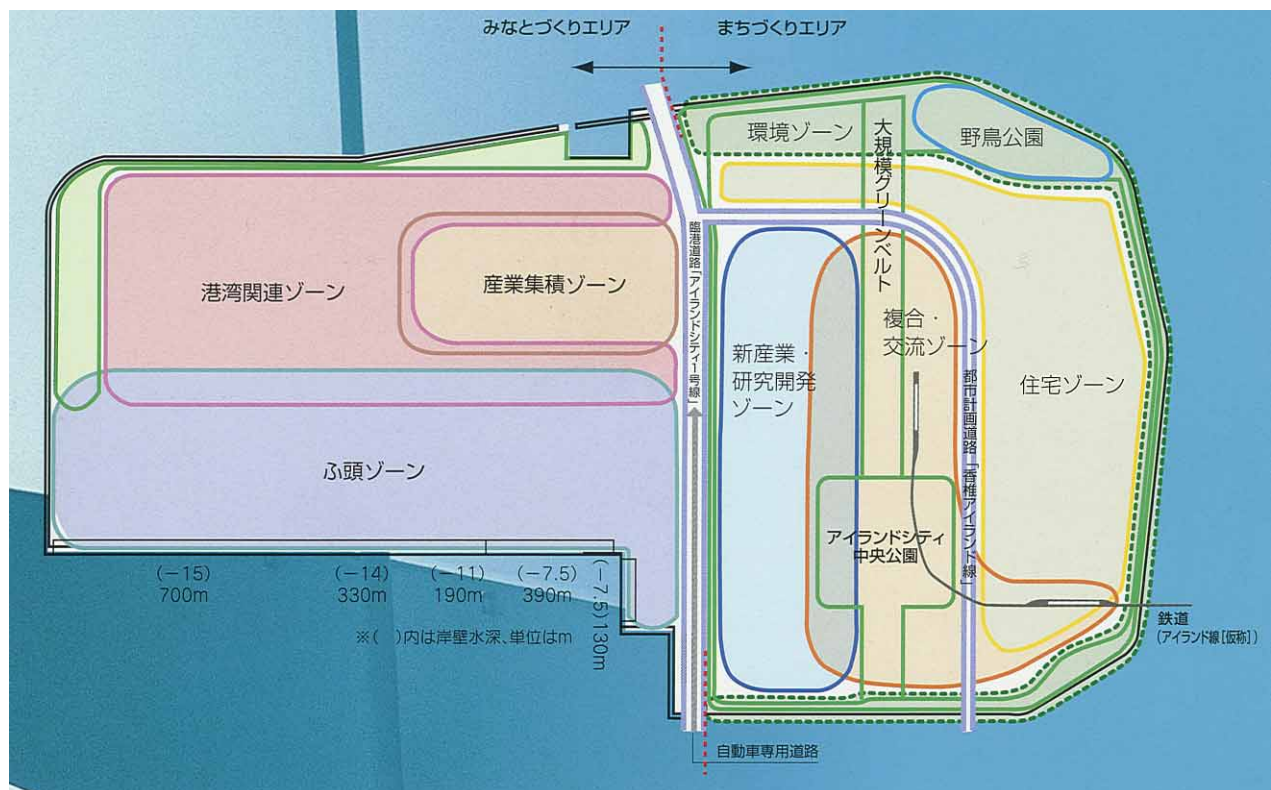
■ 博多湾東部の埋立方式の変更



[資料：博多港港湾計画資料（昭和53年改訂）]

昭和53年に改訂された博多港港湾計画では、陸続きの埋立方式が計画され、和白干潟を含む686㌥が埋め立てられる予定であったが（黄色部分）、平成元年の計画改訂時には、博多湾東部海域の自然環境保全に配慮するため、島方式に変更となり、埋立面積も401㌥と当初の約60%に縮小された。

■ アイランドシティの土地利用ゾーニング



[資料：アイランドシティのパフレットより]

アイランドシティの東側は、環境ゾーン、住宅ゾーン、複合・交流ゾーン、新産業・研究開発ゾーンに区分された「まちづくりエリア」として計画されており、野鳥公園は環境ゾーン内に位置している。また、アイランドシティの西側は、港湾関連ゾーン、ふ頭ゾーン、産業集積ゾーンに区分された「みなとづくりエリア」として計画されている。

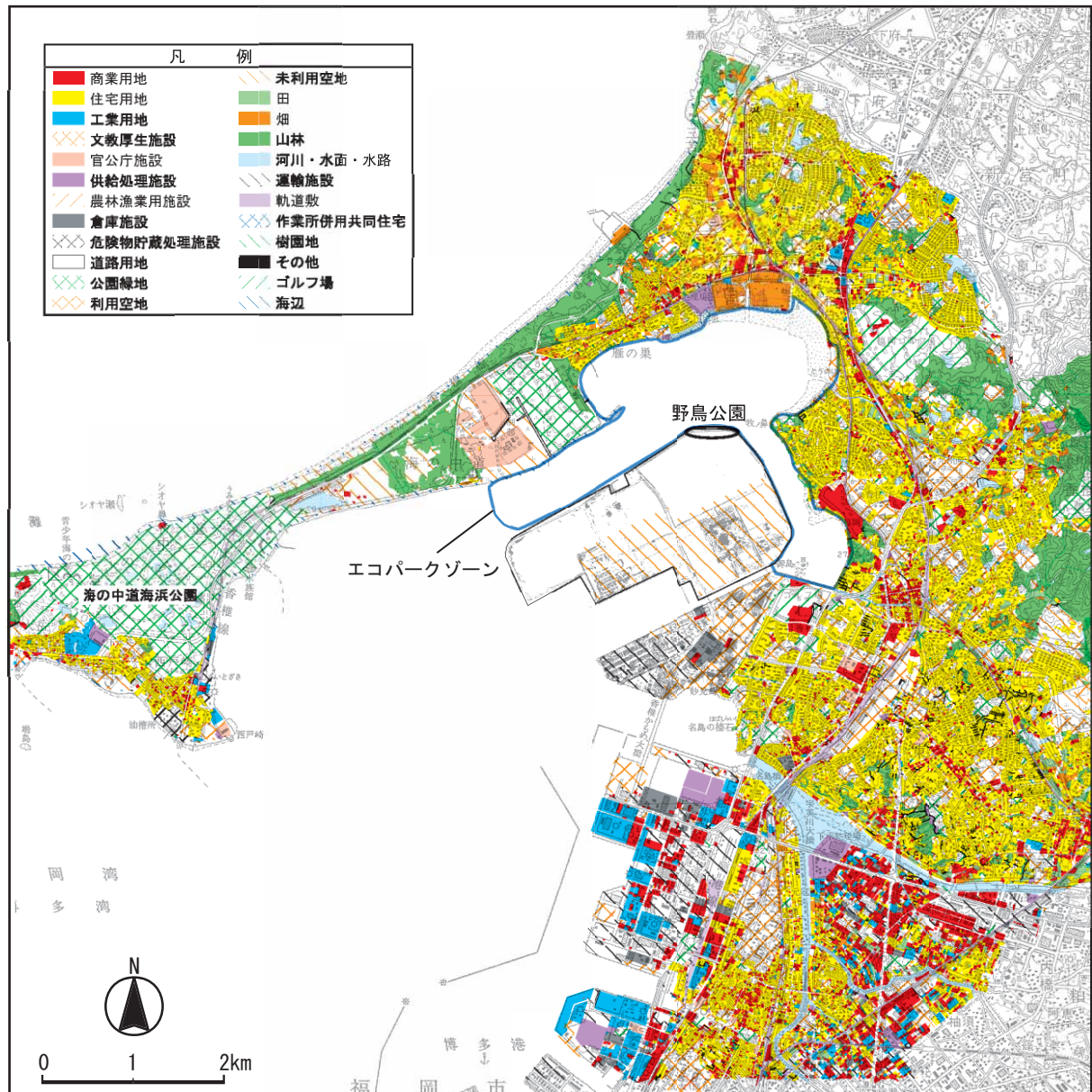
■エコパークゾーン



[資料：エコパークゾーンのパフレットより]

アイランドシティ周辺の水域および海岸域約550㍓は、エコパークゾーンと名付けられ、御島、香住ヶ丘、和白干潟、海の中道の各ゾーンに、自然環境の保全・創造や地域の生活環境の向上を目指した整備が行われている。

■エコパークゾーン周辺の土地利用状況



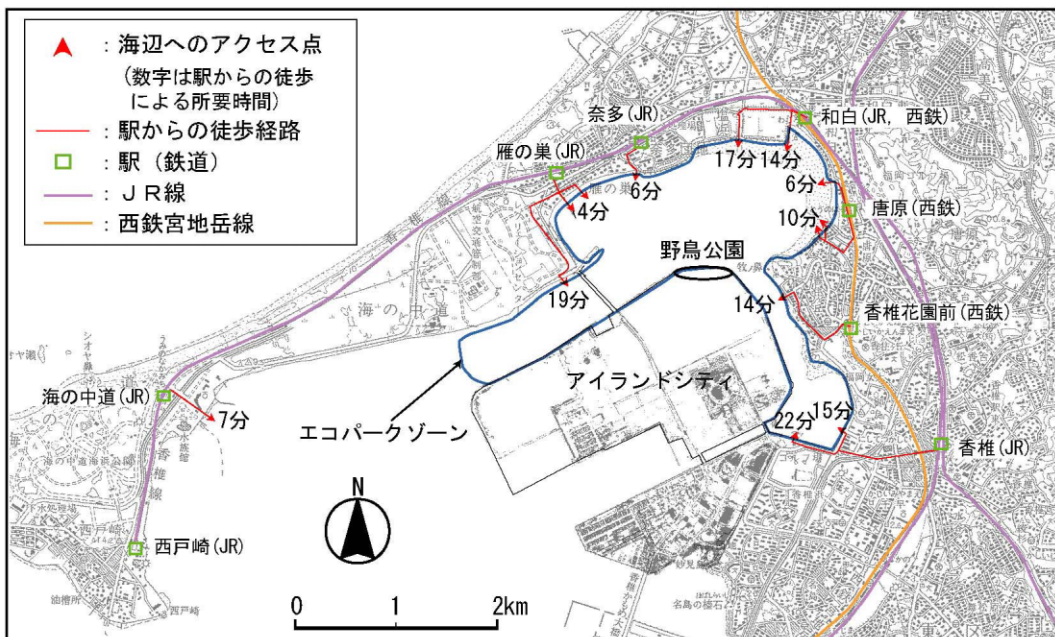
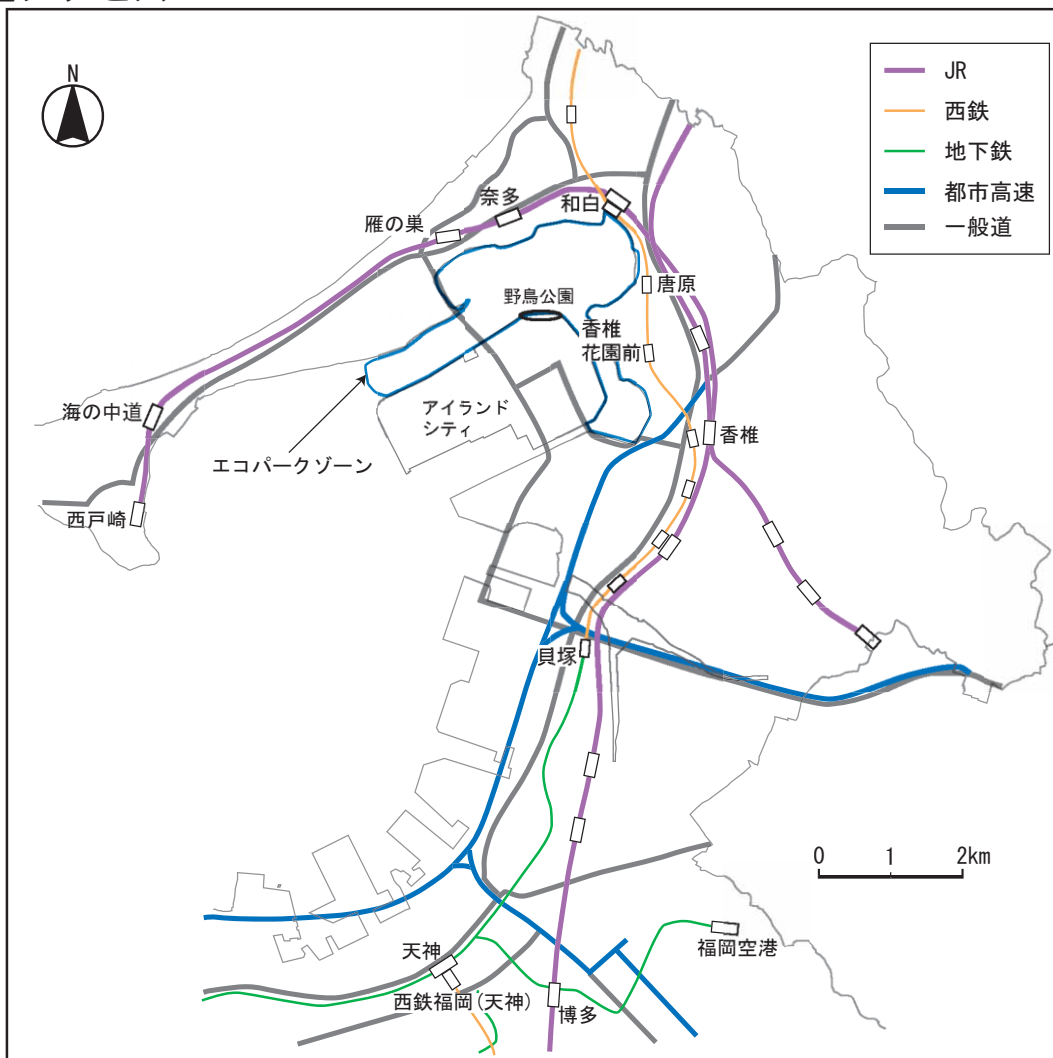
[資料：都市計画情報システム平成 14 年土地利用データ（周辺土地利用状況）]



上図における 空地の一部は現在、左図のように公園緑地（アイランドシティ中央公園、みなと100年公園）や住宅用地（照葉のまち）として利用されている。

エコパークゾーンの西側には海の中道海浜公園があり、主にレクリエーションの場として利用されている。東側は主に住宅用地として利用されている。

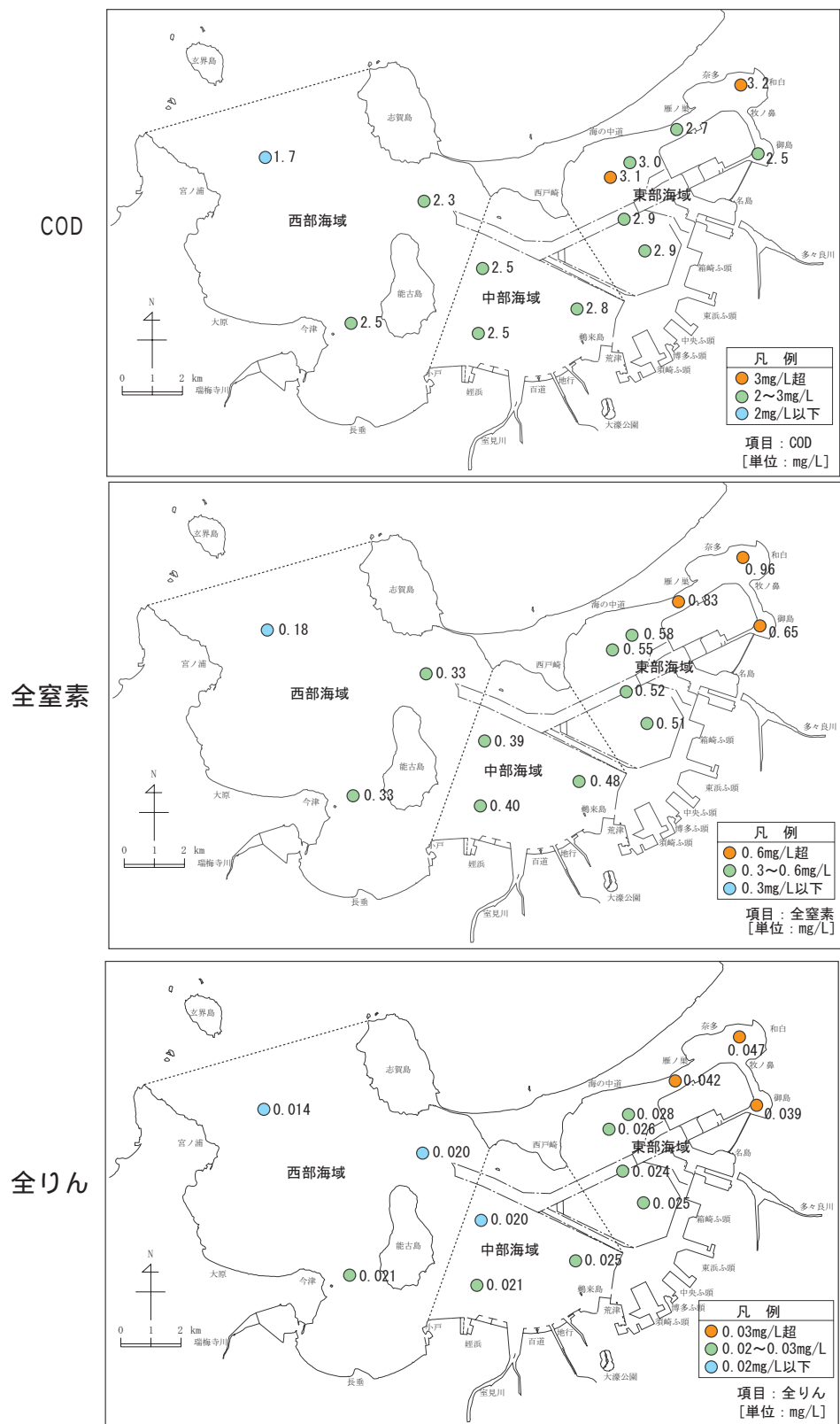
■ 交通アクセス



[資料：現地踏査結果による]

都心からエコパークゾーンの主要地点までは、交通網が整備されており、香椎までは30分圏内、和白や西戸崎にも1時間以内で行くことができる。しかし、海辺までのアクセス性については、駅から遠い地点があることや、道路幅が狭い、駐車施設がほとんどない、案内板などの施設がないなどの課題があり、劣っている。

■ 博多湾の水質年平均値の平面分布

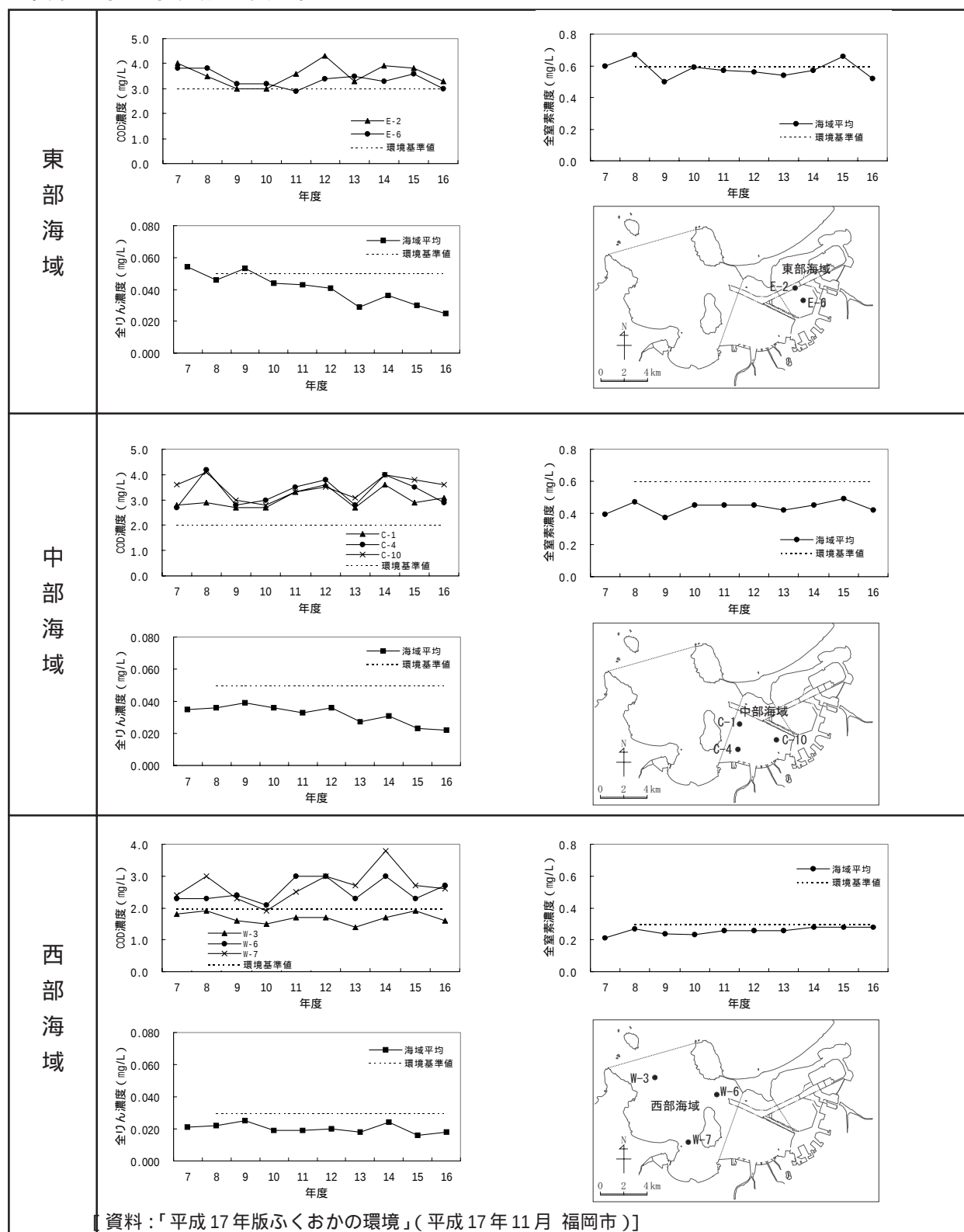


[資料：「平成17年版 公害関係測定結果（大気・水質・土壌・騒音・振動）」（福岡県）]

[資料：「アイランドシティ整備事業環境監視結果（平成16年度）」（平成17年7月 福岡市港湾局）]

COD、全窒素、全りんの分布状況を見ると、いずれも湾口部の西部海域から湾奥部の東部海域に向かうに従い高くなる傾向にある。

■ 博多湾の水質経年変化

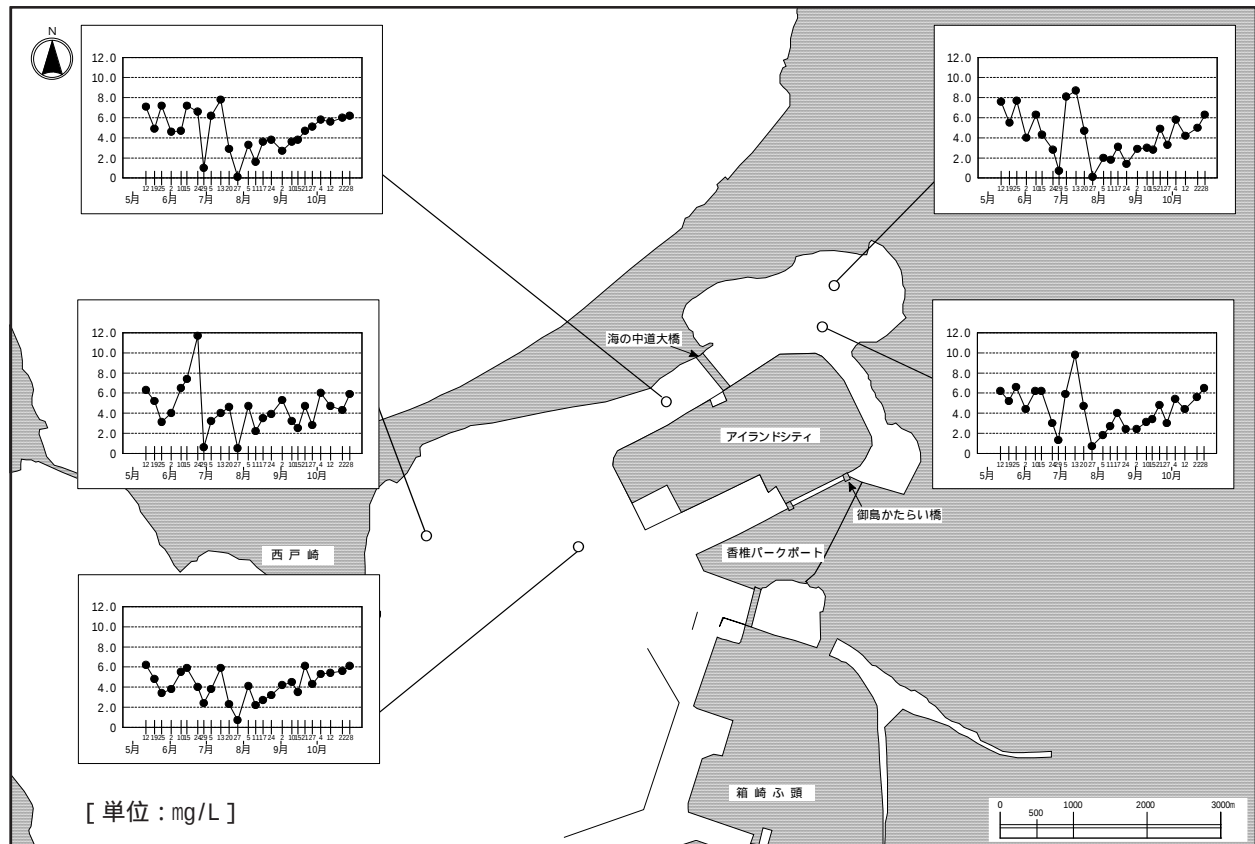


東部海域：平成16年度は、CODについてはE-6で環境基準を達成し、E-2で環境基準を達成しなかった。全窒素・全りんについては環境基準を達成した。経年的には、CODと全窒素については横ばい、全りんは減少傾向にある。

中部海域：平成16年度は、CODについては3地点とも環境基準を達成しなかった。全窒素・全りんについては環境基準を達成した。経年的には、CODと全窒素は横ばい傾向、全りんは長期的に減少傾向にある。

西部海域：平成16年度は、CODについてはW-3で環境基準を達成し、W-6W-7で環境基準を達成しなかった。全窒素・全りんについては環境基準を達成した。経年的には、COD、全窒素、全りんともに横ばい傾向にある。

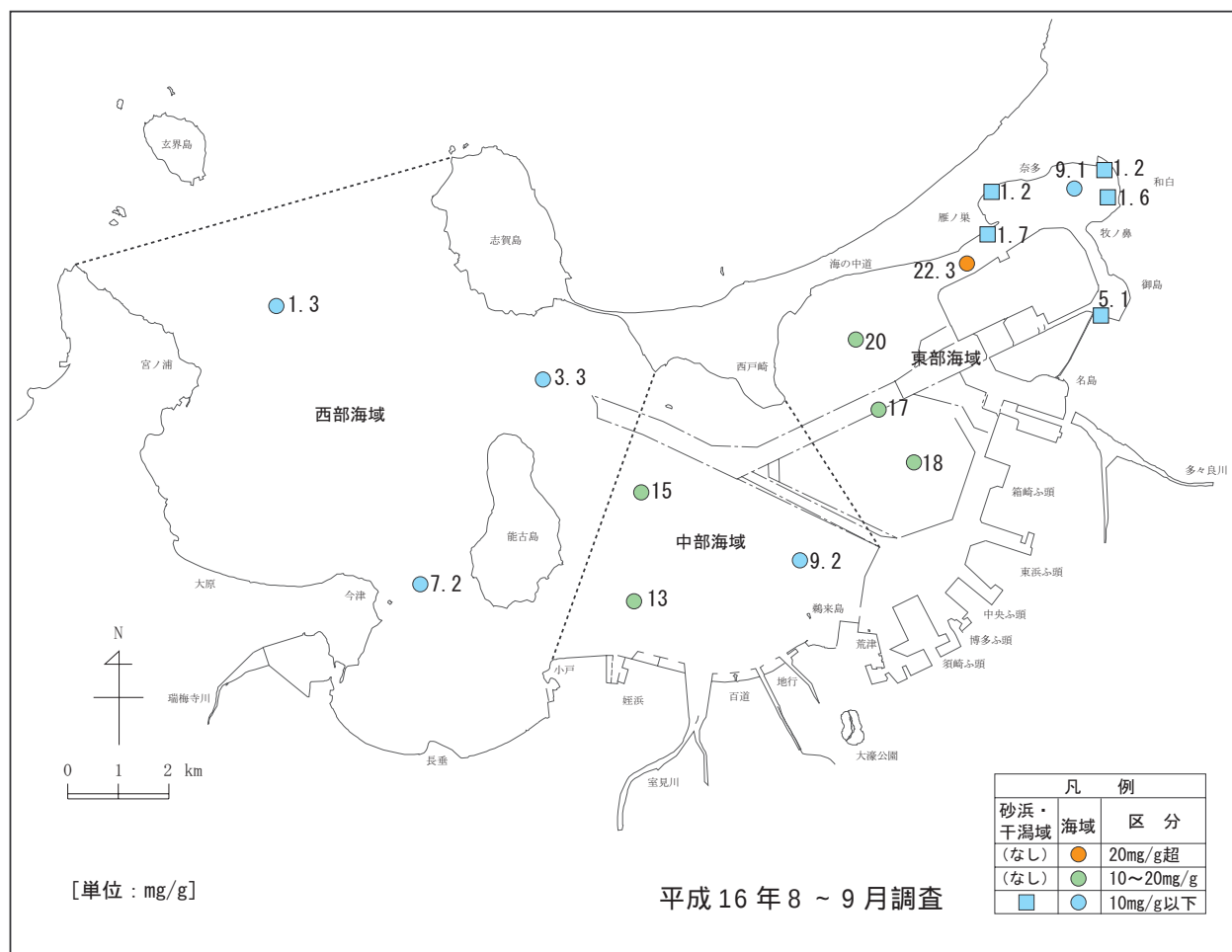
■ 博多湾の水質（海底直上のDO（溶存酸素量））



[資料：「アイランドシティ整備事業環境監視結果（平成16年度）」（平成17年7月 福岡市港湾局）]

エコパークゾーン周辺における海底直上（海底上0.1m）のDOの推移をみると、7月～9月にかけて、生物への影響が懸念される貧酸素状態（3.6mg/L以下）となる場合がみられた。

■博多湾の底質（COD）

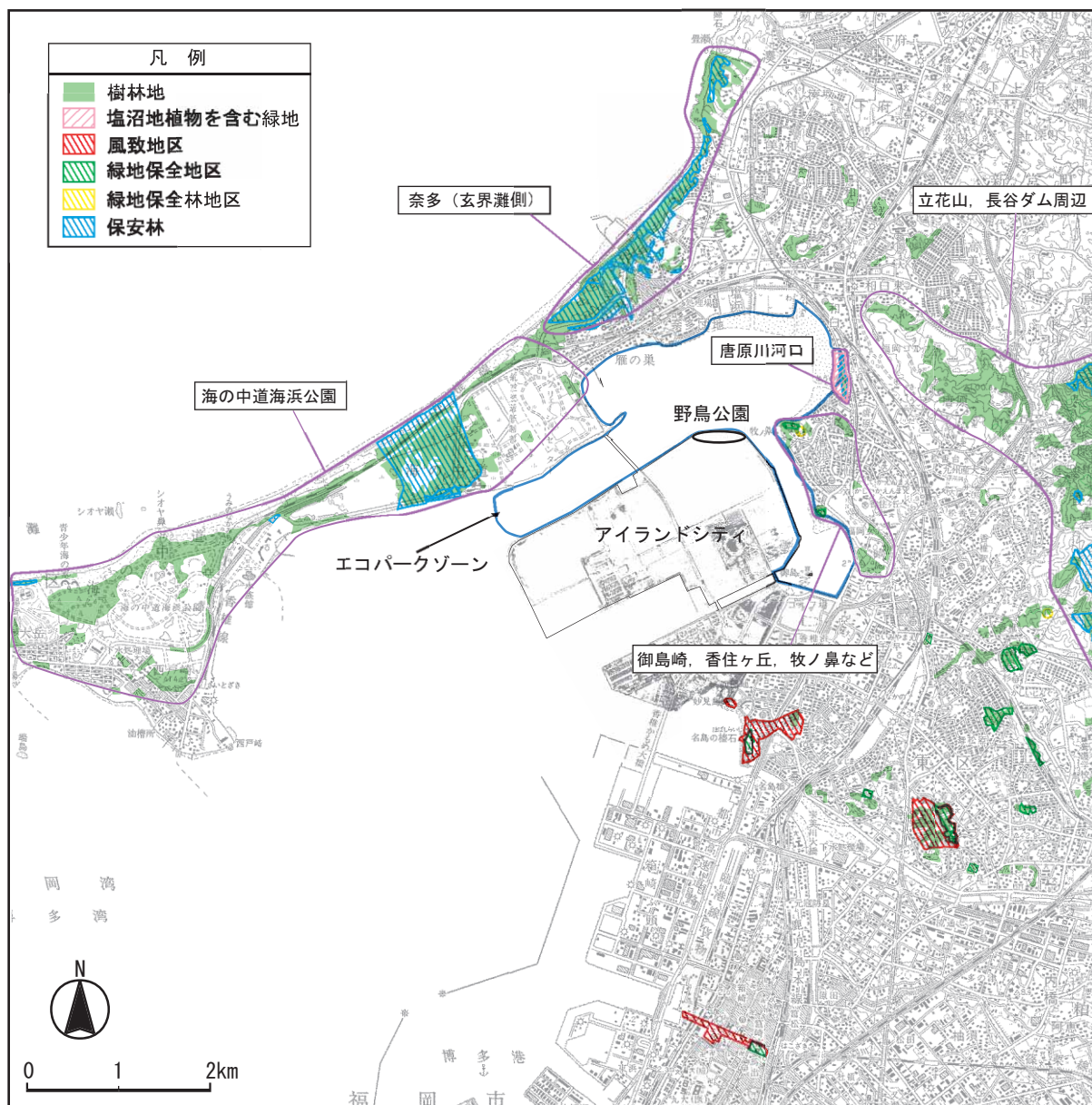


[資料：「平成 17 年版ふくおかの環境」(平成 17 年 11 月 福岡市)]

[資料：「アイランドシティ整備事業環境監視結果(平成 16 年度)」(平成 17 年 7 月 福岡市港湾局)]

底質CODの分布状況を見ると、海域では湾口部の西部海域から湾奥部の東部海域にかけて高くなる傾向にある。また、砂浜・干潟域では、1.2～5.1mg/gと海域に比べて低い。

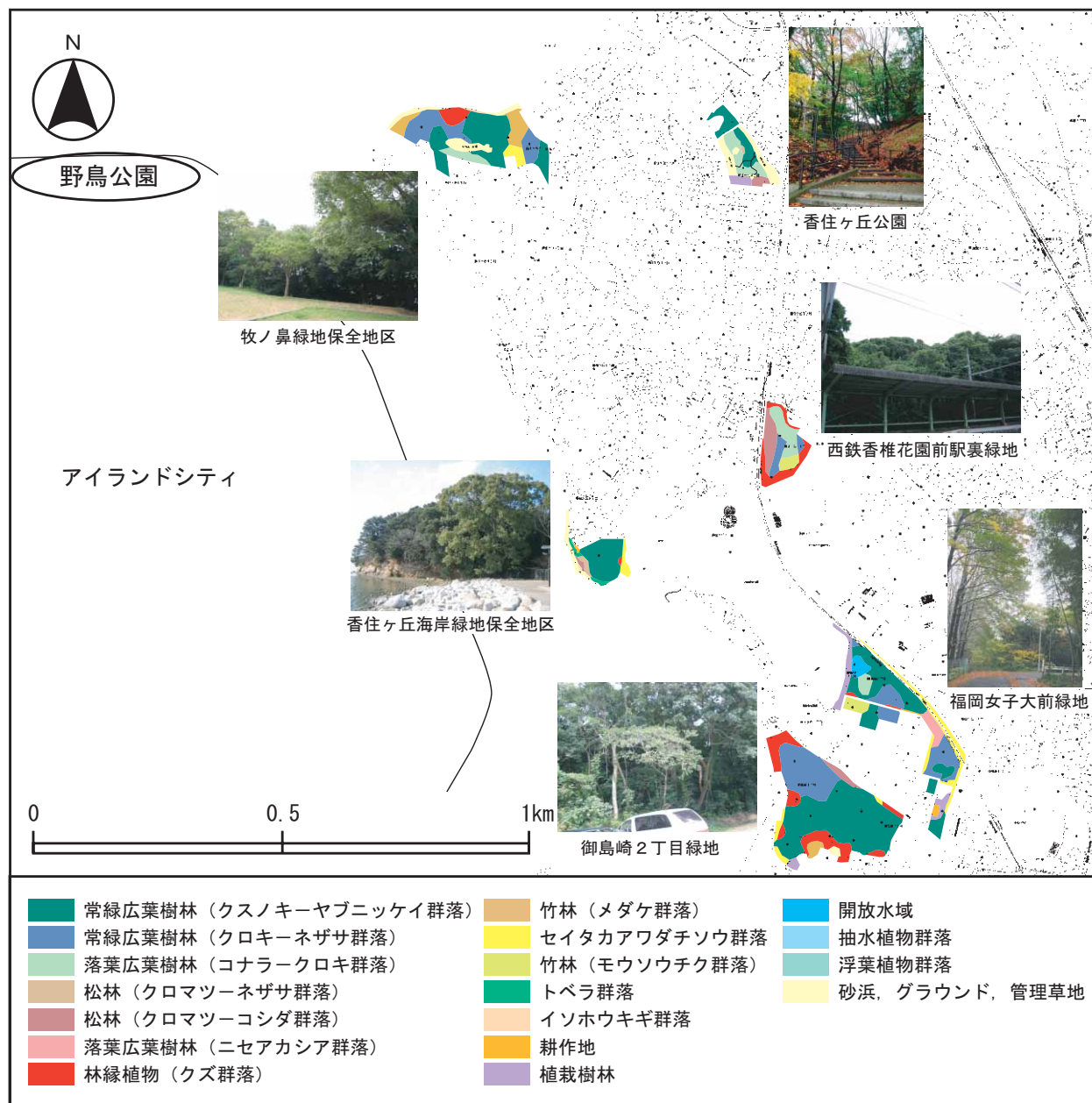
■エコパークゾーン周辺の緑地分布



[資料：「福岡市公園緑地位置図」(平成14年4月 福岡市都市整備局公園緑地部) 等]

大規模な樹林地は、立花山周辺や長谷ダム周辺、奈多の玄界灘側、海の中道海浜公園内などに分布している。エコパークゾーン近傍の御島崎、香住ヶ丘、牧ノ鼻などには、住宅地に隣接して樹林地が分布している。唐原川河口には、塩沼地植物を含む緑地が分布している。

■エコパークゾーン周辺の緑地の植生



[資料：「平成14年度 鉄軌道導入環境調査委託報告書」（平成15年3月 福岡市）]

エコパークゾーン東側の対岸の住宅地に隣接し、小規模の緑地が存在する。これらの緑地には、常緑広葉樹や落葉広葉樹が混生しており、鳥類、昆虫類、小型ほ乳類など様々な生物の生息場所となっている。